

東広島市教育委員会定例会（令和元年7月）議事録

- 1 日 時 令和元年7月25日（木）午後1時40分～午後5時20分
- 2 出席者
 - (1)教育長 津森教育長
 - (2)委員 渡部教育長職務代理人、坂越委員、織田委員、長嶋委員、京極委員
 - (3)事務局 【学校教育部】
大垣学校教育部長、小川指導課長、田川指導主事、高橋指導主事
 - (4)書記 奥田主査
- 3 場 所 北館 会議室201
- 4 議 題
 - (2) 議案事項
議案第21号 令和2年度使用小中学校教科用図書の採択について【非公開】

再開 午後2時15分

議案第21号 令和2年度使用小中学校教科用図書の採択について

- 津森教育長：再開をいたします。

これからの議題は、議案第21号令和2年度使用小中学校教科用図書の採択についてでございます。

それでは、この議案につきまして、本日の目的は、教育委員会として令和2年度使用小中学校教科用図書について、種目ごとに教科用図書を採択することでございます。

本件の審議については、次のような手順で行っていきます。

まず初めに、山田浩之選定委員会委員長から種目ごとに推薦内容とその理由の説明を受けます。これに基づき教育委員との質疑応答を行います。質疑応答が済みましたら、一度、山田委員長には退席していただいて、教育委員のみによる審議に移ります。そして、最後に教育委員会として種目ごとに教科書を採択していきます。ただし、審議には長時間を要すると見込まれますので、審議の徹底と効率性から、委員長の説明を小学校と中学校に区切り、2回に分けて行うということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 委員：よろしい。

- 津森教育長：それでは、小学校から始めていきたいと思っております。

早速、選定委員会の山田委員長に出席していただいておりますので、小学校用の教科用図書採択に係る推薦内容とその理由について説明をお願いいたします。

- 山田委員長：広島大学の山田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、座って説明させていただきたいと思っております。

教科書は、どれも非常によくできていまして、本当にわずかな差で選定をするということになるかと思います。いろいろご意見があるかと思いますが、選定委員会での案ということでご提案をさせていただきたいと思います。

では、まず国語からです。

国語は、第1推薦は東京書籍、第2推薦は光村図書とさせていただいております。

ポイントだけお話をしていきたいと思います。後でご質問にお答えする形にしたいと思います。

国語につきましては、対象となった図書は4社になります。その中で、第1推薦の図書、第2推薦の図書と選んだのですが、特に第1推薦のほうは、防災、安全ですとか、情報化社会、科学技術の発展といった、現代的な課題に対応した内容を取り上げています。また、伝統的な言語文化など取り上げられていることと、あとまた見ていただいたら分かるのですが、東京書籍は写真、挿絵、図表などが非常に効果的に使われています。そういう図表等のページが非常に工夫されているということがあって、東京書籍を第1推薦としております。

次に、書写につきましては、同じ東京書籍のほうがいいのではないかという話もあったのですが、その点については全く問題ないということで、第1推薦を日本文教出版の教科書にしております。第2推薦が東京書籍です。

これは、東京書籍のほうが教科書が大きくて、それで見やすいというところはあるのですが、教材の提示の仕方が日本文教出版のほうが見やすく、分かりやすく提供されているということです。2段目の最初のところを読みますと、第1推薦の図書は全学年で書く姿勢、用具の置き方や準備、用具の後始末の仕方を写真やイラストを用いて丁寧に説明していたり、あるいは正しい姿勢や運筆が擬態語や擬音語で強調しながら示してあるというふうに、非常に丁寧に指示をしてあるということで、小学校の書写のテキストとしては日本文教出版のほうに優れているという考えです。

特に、毛筆・硬筆の教材が豊富であって、それを自分でどんどん学ぶことができるということが日本文教出版のメリットだと言えるかと思います。

次に社会です。

社会は、第1推薦が教育出版、第2推薦が東京書籍です。東京書籍は、知識が偏り過ぎているというふうに見えるところもあるかと思います。第1推薦の教育出版につきましては、学びの手引とかを使って非常に小学生に分かりやすい形で資料を示しております。また、非常に資料がきれいで、しかも、丁寧に示してあります。東京書籍のほうも決して悪いわけではないのですが、そのあたり、図表の提示の仕方等で、教育出版のほうに優れているのではないかということで、こちらを第1推薦としております。

次に、地図ですけれども、地図は帝国書院を第1推薦、第2推薦を東京書籍としております。こちらまことに甲乙つけがたいところではあるのですが、帝国書院の

ほうが、地図から派生して様々な領域に広がりを持たせるような工夫ですとか、あるいは地図自体も非常に大きくて見やすい形になってます。そういったこともありまして、帝国書院のほうを第1推薦にしております。

次に、算数です。算数は、第1推薦は東京書籍、第2推薦が学校図書となっております。これは、先ほど申しましたように、算数につきましては、いろいろ東京書籍の良いところが出ているように考えます。特に、入門期における児童の発達段階を考慮して、2単元をA4別冊の中とじの形式で分冊にしています。このことで、1年生の児童の中心的操作活動であるブロック操作を容易にしています。内容を見ていただくと分かるかと思いますが、東京書籍のほうは一目で内容がつかみやすいよう、分かりやすく示されております。それで東京書籍を第1推薦としております。

次に、理科です。これは、第1推薦が教育出版、第2推薦が東京書籍です。教育出版も東京書籍もどちらも問題解決の場面で予想をもたせるような場面が多くあります。また、写真や図、文字の大きさなど、非常にきれいにつくってあります。どちらも本当に分かりやすくつくられているかと思いますが、ですが、教育出版を第1推薦にしましたのは、その一番下に書いておりますが、まず1点目に児童の気付きによる問題発見が仕組まれていること、要するに児童が自分で気付いて解決をしていきながら学ぶというスタンスで教材がつくられているということ。そして、2点目が実験や観察の問題に対する結論が明確であって、結論に基づく補足や説明、あるいは次の学習のステップを枠外で説明してあるため、思考を整理しやすいという点。そして、3点目に結果をもとにして、分析して考察する力や見通す力の育成が図られるような児童の対話場面が掲載されていることなど、児童が主体的に学ぶ工夫というのが教育出版のほうが少しですけども、優れているのではないかとということで、教育出版を第1推薦としております。

次に、生活です。生活は、小学校1、2年生のものということもありまして、要するに小学校生活、学校生活を始めるに当たってのスタート体験というのをどのように工夫されているかということも一つのポイントになるかと思いますが、第1推薦は、日本文教出版、第2推薦を啓林館としておりますが、日本文教出版のほうが様々な工夫がされておまして、特にスタート体験、学校での生活を始める上での導入等について非常に充実した内容になっているということ、あるいは、非常に資料等が豊富であるということ、あと、その資料の見せ方も中を山折りにして、別のページのものと一緒に見るとか、いろいろ工夫がされているということもありまして、日本文教出版を第1推薦としております。

次に、音楽です。第1推薦は教育芸術社、第2推薦が教育出版となっております。これは、この2社の図書のうちのどちらを採択するかということになりますが、この第1推薦の図書に関しましては、その教材が非常に系統的に、そして発達段階に応じてまとめて掲示されております。しかも題材となっている曲だけではなく、そこからのほかの楽器ですとかほかの曲、ほかへの広がりみたいなものも意識

されています。教育出版のほうも決して悪いわけではないのですが、そうした表題ですとかそういった点で教育芸術社のほうが優れているということもあり、その点で教育芸術社を第1推薦としております。

次に、図画工作です。こちらは、開隆堂出版を第1推薦、第2推薦を日本文教出版にしております。開隆堂出版の教科書は、非常にきれいといいますか、絵画等を大きく出しておりまして、ビジュアル的にも優れています。そして、図画工作に関わるものを効果的に見せているということも言えます。その一方で、日本文教出版のほうは少し説明が長くなっていて、図版等が小さくなっているという点があります。それは説明が長いから自分で勉強できるということもあるのですが、図画工作なので、絵画等からどのように印象を受けるかという点では、開隆堂出版さんのほうが優れているということで、第1推薦を開隆堂出版としております。

次に、家庭科です。これは、第1推薦は東京書籍、第2推薦が開隆堂出版になっています。こちらも、どちらが優れているかは、非常に難しい問題です。第1推薦の東京書籍は、そこに書いてありますように、どの題材もリード文で学習内容の概要を示して、問題解決的な学習の流れを3ステップで構成しています。ですから、非常に構造化されて分かりやすくなっているというのが東京書籍の特長かと思えます。また、一番下にありますように、巻末に基礎的な内容をまとめて掲載されているなど、そういう基礎、基本の定着ということにも大変気を配っているという点がございまして、第1推薦を東京書籍にしております。

次に、保健です。第1推薦は東京書籍、第2推薦は光文書院です。第1推薦の東京書籍に関しましては、写真やイラストが多用されておりまして、きれいになっております。結局どちらかというのはなかなか難しいところですが、第2推薦のほうも工夫はされているのですが、第1推薦のほうそういった資料の提示が豊富で大きく分かりやすくなっております。資料が充実している点を考慮して第1推薦を東京書籍としております。

次に、英語は、第1推薦が東京書籍、第2推薦が光村図書になっております。こちらは、小学生の英語の学習ということで、導入としてはどちらもいろいろ工夫がされているのですが、東京書籍のほうそれぞれ基本表現のリストですとか、書き順つきのアルファベットの表とか、小学生が学ぶ上で非常に基礎的なことを分かりやすく提示しているという点がございまして、そういったこともありまして、第1推薦を東京書籍としております。

最後に、道徳です。第1推薦が東京書籍、第2推薦が光村図書になります。こちらは、いずれも内容が整理されておりますし、いじめ問題等にも対応したものになっております。ただ、東京書籍のほう、小学生が自分で気付いて考えるというような、そういう仕掛けがいろいろしてありまして、単に教材を読ませるだけではなく、身近な面から自分の問題に気づき、そしてそれをしっかり考える、しかもきれいなイラストで状況が示されているということがありまして、第1推薦を東京書籍としております。

非常に駆け足でお話をしましたが、小学校につきましては以上になります。

- 津森教育長：ありがとうございました。
それでは、質疑応答についてお願いいたします。
- ████████：教材の配列や表現についてはかなり審議されたようですが、内容面での審議はされたのですか。
- 山田委員長：内容面についてもいろいろと議論はしたのですが、学習指導要領に沿ってつくられているので、内容で大きく違うということはないという判断で、それよりも特に小学生に関しては、分かりやすく資料が提示されているかどうかということが選考のポイントの一つになったかと思います。
- ████████：山田委員長、様々な大きさがあり、正方形に近いものもあれば、縦長のとか、あるいは厚みのあるものもある。また、上下の分冊になっているものもある。そのあたりは選定委員会で考慮する観点としてはあったのでしょうか。
- 山田委員長：厚いものは避けると、そういうような話はしてはいないんですが、考慮する際の一つの基準にはなっているかと思います。
分冊になっているというのは、先生方によって大きく考え方が違っていて、それが良いという先生と、いやそれはだめなのだという先生がおられました。教科によっても大分考え方が違うようです。
あと、大きさに関しては、以前かなり問題になったこともあるかと思うのですが、現時点では、この大きさでランドセルに入るという話なので、大きいからやめるといような意見は出ていません。
- 津森教育長：ありがとうございます。
そのほかでいかがですか。
- ████████：教科によっては書き過ぎている教科があると思います。特に東京書籍が結構細かいところまで書き過ぎているのではないかと思います。そうすると子どもたちが考えないようになることもあるので、そこらあたりの配慮というのがどうでしょうか。
- 山田委員長：それは、その会社の基準になるのではないかと思います。非常によくできていると思います。でも、それがまさにおっしゃられたように書き過ぎていて、それがこの教科には合わないという場合もありますし、逆にチャート式の分かりやすいきちんと書いてあるもののほうが良いという教科もあり、それがこの結果に現れているのだと思います。小学校は、ほかの教科書会社のほうが重視されるようなところがあるのは、そういう丁寧に説明しているよりも、もう少し大ざっぱな中で分かりやすいほうが良いという、そういう判断だと思います。
- ████████：本市には、新採1年目・2年目・3年目と10年目未満の先生が、かなりいらっしやいます。選定にあたって、経験年数の少ない教員が多いということに対するの考慮がありましたか。
- 山田委員長：それを考慮して選んだということは特にはないですね。ただ、選定委員の方はそのあたりも考慮はされているのではないかと思います。それぞれの教科の担

当の先生方が使いやすいものということでは考えられているのではないかと思います。

- ■■■■■：家に帰って自分で勉強できるような付録的なものであるとか、そういうところでの考慮はありましたか。
- 山田委員長：それは、基礎基本の定着ということで、自分でまとめを見て、あるいはまとめて学習を振り返るような工夫がされているものというのが優先されているなと思います。ただ、量が多くなりすぎると、使いにくかったり、先生にとっても児童にとっても負担になってくるので、その適切な分量ということで選定されています。
- ■■■■■：今度、英語が初めてできたということで、一般の方々も関心が高いと思いますが、先生が不安がっていた、今までの英語っていうと中学校からですね。今度は小学校から。それで感覚的に、中学校をそのまま小学校というのではなくて、やっぱり小学生の教科の理解というのがありますから、そういう配慮というものがあつたのでしょうか。
- 山田委員長：それはとてもされているかと思います。中学生がやるものよりもそういう会話ですとか、要するに挨拶だとかそういうところから始まりますし、大分それは配慮されているのだと思います。ただ、今回第1推薦とした東京書籍では、中学校の英語学習と少し近いところがあるというのが東京書籍を第1推薦としたところに現れていると思います。
- ■■■■■：この第1推薦の東京書籍のほうのコミュニケーション活動を主にしているという、そういうところが特長でいいとこだということですが、これは結局最終的には会話とかそういう意味でのコミュニケーションですか。
- 山田委員長：はい、そうですね。実際に英語を使ってコミュニケーションをとるといふ、そういうことです。
- ■■■■■：ありがとうございました。
- ■■■■■：これは、調査員の先生の報告を受けられた印象でいいです。小学校はその教科の専門であるであろう先生に、調査していただいているわけですから、その先生方は自分たちが得意だ、あるいは詳しいという目でだけ見ている感じなのですか。そうではなく、自分たちは得意だけど、苦手の先生だっている、苦手の先生はどっちがいいんだ、どんなのがいいんだ、みたいなことも考えて調査資料を作成されているのでしょうか。両方あるということであればいいのだけど、何かそこに傾向みたいなものは感じられましたか。
- 山田委員長：得意だから選ばれてるといふのは間違いなくあるかと思いますが、自分たちが使いやすいもの、自分たちの感覚に合っているものというのを選ばれているかとは思いますが。苦手な先生のことまで配慮されているかというのはちょっと分かりませんが、でも一般的に教員として使いやすいものという配慮はあるかと思えますので、ほかの先生方が使えるもの、使いやすいものということでは考えられているのではないかと思います。

- ■■■■：やはり、得意なところは当然気持ちはあるけれども、一般的な使用方法という観点から見ていただいているということですね。ありがとうございました。
- 津森教育長：ほかにはどうですか。
- ■■■■：ちょっと限定的になるのですが、もし国語の調査員の先生が何か言われていたら教えてほしいのですが、今回の選定理由にも説明的文章っていうのがかなり重視されていて、今よく話題になっているように読解力が低いとか、読解力を付けるために今度は逆に文学的資料のほうを少なくして、言葉は悪いけどカタログが読み解ける読解力みたいな世界を強調するというのがあるじゃないですか。そのあたり、今回は説明的文章もしっかり書いてあるよという理由が書いてあるのですが、やっぱり文学、どこの教科書会社かというちょっと微妙に難しいのだけど、選定された方の見方としては、何かそんなような言葉は出てきましたか。
- 山田委員長：特にそういう話は聞いてはないのですが、でも決して文学作品が少なくなっているということはないのではないかと思います。ただ、説明的な文章だとか、そういったものが少し東京書籍の場合は雰囲気が違うのではないかと思います。ほかのこととは違う、現代的な新しいものを教材として取り上げられているようなところがあるので、その中で読解力を付けていくという、そういった教材が取り上げられているように思います。
- ■■■■：特に社会科ですが、遠くのほうのことが教材になっている場合と、割と身近な近いところの教材が使われている場合とがありますが、そういうところでの審議は行われていますか。
- 山田委員長：それはもう選択の理由にはしてはいない部分かとは思いますが、教育出版は広島のことをかなり取り上げられています。教育出版は児童にとって身近な広島県に関わる内容を選定しています。ほかのところもそういう広島の題材というのは、出てくるのですが、教育出版を選択した、直接の理由ではないですが、これが理由の一つにはなっているようです。小学校は広島のこと意識してということですが、中学校は全然考えられていないです。
- 津森教育長：それでは、全体的な質疑も尽きたと思いますので、以上で質疑応答を終えたいと思いますが、よろしいですか。
それでは、山田委員長、一旦退室をお願いします。
- 山田委員長：どうもありがとうございました。
- 津森教育長：それでは、委員の皆様による審議をお願いいたします。
まず、国語でございます。
第1推薦、第2推薦の中からどちらかということによろしいですかね。その他のご推薦はないですね。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、ご意見があれば、お願いいたします。
- ■■■■：いいですか。第1推薦と第2推薦の、全部見るわけにはいかなかったのですが、4年生の「一つの花」というのが両方に出ております。その「一つの花」の

挿絵もやっぱり東京書籍の挿絵のほうが、何か優しいです。

- 津森教育長：見てくださいね。4年生です。
- ████████：喜びの顔とか、あれがちょっとぼやけているというのがありますし。
- ████████：これとこれとの違いですね。
- ████████：そうです。子どもの読み取りを助けてくれるのには挿絵が大切だ、と思いました。そこで、「一つの花」という題名を最初何でこんな題名がついたのかというのを子どもに問いかけて、最後に学習した後、話の題名はどういうつもりで書いたのだろうかと問う。そのあたりが、きめ細やかです。

ここ一部だけ、全部読むわけにはいかないのですが、ここの学習をしてこれだけ自分なりに成長したというか、それが分かるような手引になっています。

- ████████：かつては、どっちかにしかない教材というか題材があったのですね。今、定番がどちらもあるのですね。「ごんぎつね」とか。題材で差が付かないということはありませんよね。
- ████████：東京書籍の「ごんぎつね」の魅せ方は、絵の前に問かける文章が何行かあって、そこから1枚めくると物語が始まるという感じで、子どもたちの心の準備ではないですけど、そういうことがうまく示されているように感じました。
- ████████：東京書籍であれっと思ったのが、こういう文学作品の入り口の扉のところに1文がある。いきなり1文があって、それで引き込もうとしているようです。
- ████████：「ごんぎつね」もそうです。
- ████████：だから、これは他にないですね。
- ████████：全部そういう感じですね。めくると物語が始まる。
- ████████：工夫の一つかなと思います。
- 津森教育長：そのほかにどうですか。
- ████████：教科書の教材にも歴史を感じます。若い先生が、教材によっては指導しきれないという現状がある中で、親切な教科書も大切なのではないのでしょうか。
- ████████：どの種目もそうだと思うのですが、第1推薦、第2推薦の差はない、あえて選ばばということから、どちらが優れているかというより、どちらの特色をとるかという、先ほどの詳しいというのも特色だし、なるべくシンプルにして先生たちの裁量でやるっていう基準でというのも特色だと思います。
- 津森教育長：先ほどから聞いておりますと、この場合は丁寧なほうが良いのではないかというご意見が多いようでございますが、どうでしょうか。国語は東京書籍とするということでもよろしいでしょうか。ご異議ございませんか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、東京書籍ということで決定いたします。

採択理由は、単元の配列が特徴的であるとともに、写真、挿絵、図表などの提示が効果的であるとします。

次へ参ります。

書写です。書写については5社あるのですが、第1推薦は日本文教出版、第2推

薦は東京書籍になります。これは、国語は東京書籍になったから、書写も東京書籍ではないといけないということは全くございませんので、それを前提で第1推薦は日文になっておりますが、いかがですか。

- ■■■■■：何か東京書籍は書き過ぎているって感じがして、シンプルなほうがよいと思います。私の感想ですけれど。
- ■■■■■：確かにそうですね。大きさが違うんですね、たしかに日本文教出版のほうは小さいです。東京書籍と日本文教出版、これはかなり見た感じ違いますね。
- 津森教育長：書写は日本文教出版ということによろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、書写は日本文教出版ということで決定します。

理由は、主体的な学びを引き出す工夫があるとともに、毛筆教材、硬筆教材の豊富さに特長があるということといたします。

次の種目で社会ですが、これについては、第1推薦が教育出版、第2推薦が東京書籍となったようですが、いかがですか。

- ■■■■■：山田委員長の説明では、教育出版が東京書籍より地域教材が多いとのことでしたが、調査員の報告書によると広島県に関することは東京書籍が多いように思います。東京書籍は西日本、教育出版は関東が多いような気がします。広島県の子どもたちには、平和学習をしっかりとしてほしいです。東京書籍は高学年で詳しく掲載されているように思います。
- ■■■■■：社会は、この教科書のとおりにはやらないといけないのですか。
- ■■■■■：そんなことはないです。
- ■■■■■：地域教材を発掘して子どもに教えるということは、教師の力量が問われます。そして時間を要します。教科書に載っていれば、そのまま活用できるのではないのでしょうか。
- ■■■■■：平和学習がありましたよね。
- ■■■■■：教育出版の教科書は、1冊で重量が五百グラム以上あります。先ほど、分冊がよいかどうかのお話がありましたが子どもたちのことを思うと軽いほうがよいと思います。
- ■■■■■：分冊というのは、社会科の資料集もあるので、重たくなるのは確かにあるんだけど、政治経済と別というシリーズで分けています。
- ■■■■■：なぜ分冊ではいけないのですか。
- ■■■■■：分かりません。1冊のほうがコストは安いと思います。私は教育出版のほうがいいと思ったので、その意見で言わせていただきます。

それは、まず単元の入り方のところに折り込みページがあって、進め方が折り込みで書いてあって、社会が苦手な先生が多いんですけど、参考になるのではないかと思ったことと、まとめの記述のところは東京書籍は非常に一般的な感じがしました。あと、私はこれが一番大きいのですが、教科書の本文の活字がインパクトがないんですよ、東京書籍のは細くて。書いてあるのは一緒だけれども、教育出版

のほうが濃い活字で書かれている、そのほうが私は分かりやすいかなと思いました。

- ■■■■■：教育出版のほうが一瞥と見たときにすっと入ってくるような感じはしましたね。
- ■■■■■：何か社会科の文章というのは、国語とかとは違って極めて説明的になって、何かいかにも教科書ぽくてインパクトがないなと思いました。
- ■■■■■：私が言いたいのは、とにかく若い先生が指導しやすい教科書であるということです。やや文字が小さいという理由で、子どもの学習意欲に影響があるとは考えられません。
- ■■■■■：確かに、いろんなことが情報として、文章以外に入ってきますね。
- ■■■■■：県教委は、そういう地域を扱った補助資料とかつくらないんですか。
- ■■■■■：広島市はありますよね。
- 小川指導課長：東広島市は資料集を購入して、中学年には「わたしたちの東広島市」というのをつくってあります。
- ■■■■■：あるんですね。
- 小川指導課長：はい。
- ■■■■■：それが授業の中で、実際に活用されているのですか。
- 小川指導課長：はい。
- ■■■■■：それとの兼ね合いですが、教科書は教科書でいると思います。
- 津森教育長：時間はエンドレスになっていくので、ここでとまれません。すみませんが、ここはもう挙手をしていただくしかないかと思えますけど、どうですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、第1推薦の教育出版のほうでいいのではないかとと思われる方、挙手をお願いします。
東京書籍のほうがいいのではないかとと思われる方、挙手をお願いします。
2対3ですね。私は、教育出版を選びたいので3対3になりますが、どうでしょうか。
- ■■■■■：私の考えを言ってよろしいですか。
これもなかなか難しいことで、余り個々の問題を取り上げれば、どっちかへ振れるということがあって、東京書籍のほうも、これはなかなかいいと思います。それほど大きな違いがなければ、この推薦どおりでいいのではないかと私は思っています。
- 津森教育長：ほかにはご意見ありますか。
- ■■■■■：私が東京書籍に気が付いたのは、中身的にはそんなには思ったんですけど、6年生は分冊でしたよね。形的には中学校になったときの社会科というのにつながりやすいかなという意見でもって手を挙げました。内容的には、ある意味五分五分、構いません。
- ■■■■■：私は、自分の実践から言えば、子どもは身近な教材の多い教科書に親しみ

をもち、学習意欲にもつながると思います。

- ■■■■■：例えば、東広島についての社会科の教材というのは別に副読本みたいなものがありますよね。
- ■■■■■：あります。
- ■■■■■：ですから、そういう特に地元のことにしても別途そういうもので教えることができるので、それはそれでいいのではないかなと思います。例えば東広島の水道料金がなぜ高いかとか、そういうものの活用でいいのではないかなと思います。
- ■■■■■：あれは3、4年生が主に使うんですかね。
- 小川指導課長：中学年です。
- ■■■■■：5、6年生では郷土資料が必要ですね。
- 小川指導課長：資料集ということにはなると思います。
- ■■■■■：小学校はないんですか。
- 小川指導課長：中学年で「わたしたちの東広島市」という地域の資料を使います。
- ■■■■■：ありますよね。
- 小川指導課長：使います。
- ■■■■■：私もやはり東京書籍の広島県のことを勉強するというのは大事なことかなと思います。ただ、教育出版と東京書籍だったらどちらのほうが教えやすいですか。同じような感じですか、それとも例えば教育出版のほうが教えやすいとか、違いがあったりしますか。
- ■■■■■：もう考え方だと思うんですね、それは。
- ■■■■■：余り教師ファーストになり過ぎちゃったらいけないし、やっぱり受けるのは子どもたちなので、そういった視点もやっぱり要るんじゃないかなと僕は思いますけど、確かに教えるの大変だけど、でもそれはやっぱり教師になった以上はやっぱり勉強していただかないといけないし、そういう研修制度もきっちりやらないといけないとは思います。
- ■■■■■：現実はですね。
- ■■■■■：大変なんでしょう。
- ■■■■■：教師がきちんと指導しきれない教材は、子どもの確かな学びにつながらないと思います。私たちの感覚と現在の教師のレベルには少しギャップがあるのではないのでしょうか。
- ■■■■■：私のようなお年寄りの視点で言ったらいけないけども、ぱっと見たときにやっぱりすっと入る、レイアウトだったりとか、文章の量だったりとか、多分あるんじゃないかなとは思うんです。僕はそれで判断、そうすると、めちゃくちゃ多くなくて、東書なんて結構細かいこといっぱい書いてあったりとかして、子どもたちも多分そこまで見るのかなと、どちらかという漫画世代のところもあるので、ぱっと判断をするところがあるから、こっちのほうがいいんじゃないかな、ただそれだけの理由ですね。
- 津森教育長：ご意見をいただきましたが、いろいろと両論あるようでございます。そ

れで、やはりここで議論がまとまらないというときには選定委員会の結論に乗ると
いうのが一つの妥当な判断ではないかという考え方じゃないかというふうに私は思
います。もうそうするしか決めようがないかなと思いますので、ここは選定委員
会の結論を尊重するというところで、社会科は教育出版でいかがでしょうか。

○ 委員：よろしい。

○ 津森教育長：次の種目へ行きます。

地図です。これは帝国書院と東京書籍ですけど、帝国書院を第1推薦にされてい
ますが、ご意見は何かございますか。

○ ■■■■■：これはね、僕は東京書籍です。先生たちからしたら、もうまたかみたいな
全然新鮮さがありませんよ。ページもどンドン世界とか山とか全部写真で使って、好
印象だけれども、多少慣れはある。ただこれもやたらと判が大きくなっているんで
す、地図自体が。

○ ■■■■■：私は大きい方がよいと思います。

○ ■■■■■：字はね、字は大きいほうがいいですが、視野の中に入らないというか、何
かそういう感じはあったんです。

○ ■■■■■：帝国書院は、地図帳では歴史があると思います。

○ ■■■■■：今ごろは物差しみたいに縮尺の線があります。だからものすごく親切で丁
寧な教科書なんですよね。

○ ■■■■■：今までそんなのなかったですよ。

○ 津森教育長：ほかにはいかがですか。

それでは、社会科における様々な社会事象と地図を関連付けてあるという使いさ
すさがあるということで、地図については帝国書院ということでよろしいでしょ
うか。

○ 委員：よろしい。

○ 津森教育長：では、帝国書院とさせていただきます。

続いて算数です。算数は、第1推薦は東京書籍、第2推薦が学校図書になってい
ます。これは、算数はどちらも6年だけ合冊なんです。5年までは分冊なんです。
先ほどのお話にありましたように、報告書では、東京書籍のほうが丁寧な感じで、
学校図書のほうはそこまで、はっきりしていますね。

○ ■■■■■：3年生の重さの単元で東京書籍は発達段階をふまえて丁寧に学習の過程が
記述されています。重さの単位はなぜ必要なのか。学校図書の方は、単元の導入段
階で身近な生活との関わりがあり、工夫されていると思います。

○ ■■■■■：それから、東京書籍のほうは目次を見ると、現在勉強していることの
前に、その前の学年で勉強したことや、その次の学年でという関連付けで書いてあり
ます。例えば、ここで分からなくなったとき、その前の学年の教科書を自分で見て
復習するとか、それが次につながるということが見て分かるからいいかなと思
いました。

○ ■■■■■：確かに、算数はレベル差が出てくると思います。だから、できる子はもっ

とやりたいと思うのだけど、何か問題とかあったり、確認事項もあったりしているので、東京書籍はうまい具合にできているなと思います。習熟度の程度など、丁寧につくられています。

○ 津森教育長：東京書籍のほうがいいというようなご意見でございますが、よろしいですか。

○ 委員：よろしい。

○ 津森教育長：では、算数は東京書籍とします。

決定理由は、児童の発達段階の考慮等があったり、習熟の程度もしっかりとそれを掲載したりしている点が優れているということです。

続いていきます。

理科は、第1推薦が教育出版、第2推薦が東京書籍とありますが、いかがでしょうか。

○ ■■■■■：やっぱり、東京書籍は本当に丁寧に細かいとこまで書いてあるので、ある程度自分で読んでいけば分かります。書き過ぎではないかと思います。余り書いてしまうと、よく観察したり、考えたりしなくなるので、そのとおり教育出版のほうがいいのではないかなと個人的な意見ですけど、そう思っています。

○ ■■■■■：報告書の第1推薦の特長と第2推薦の特長はほぼ共通しており、これだけで教育出版が東京書籍より優れているとは言えないと思います。

東京書籍はバリアフリーの視点での記述があります。5年生の「人の誕生」の單元では、妊婦のためにゆずり合いの席のことにも触れられています。最近、電車の中で、妊婦さんがおられても、ゆずり合いの席に若い学生さんが堂々と座っている光景を目にします。本單元で触れていることは意義があると思います。また、東京書籍はどの写真にもこだわりがあり、子どもたちの写真は目が生き生きしています。さらに、東京書籍は、小単元のネーミングにおいて、子どもの学習意欲につながる工夫があります。

○ 津森教育長：どちらもご意見が出ていますが、甲乙つけがたいということかも分かりません。そのほかご意見ありますか。

○ ■■■■■：この報告書はどの時点で書かれたものですか。

○ 津森教育長：選定委員会が書くのだと思いますが。意見は出ているのですが、ここは選定委員会の順番どおりということでどうでしょう。こちらの選定委員会の趣旨を尊重するというので理科はよしとさせていただいたらどうかと思いますが、いかがですか。

○ 委員：よろしい。

○ 津森教育長：よろしいですか。

それでは、理科は教育出版とします。

理由としては、児童の気付きによる問題発見が仕込まれていること、考察する力や見通す力の育成が図られるような児童の対話場面が掲載されているということです。

生活へ行きます。

生活は7社あったのですが、日本文教出版と啓林館が第1推薦、第2推薦となっておりますが、これについてはいかがですか。

特にご意見がなければ、この選定委員会の推薦どおりに日本文教出版としたいと思いますが、いかがですか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、理由としては、スタートカリキュラムの内容や学習内容の配列が優れているということです。
音楽です。音楽はもう2社しかないのですが、こういう順序がついておりますが、いかがでしょうか。
- ■■■■■：2社を比べると、やっぱり丁寧に書かれているのは第1推薦の教育芸術社だと思います。この推薦理由がまさにそうで、本当に発達段階においてきめ細やかな指導もできると思いますし、子どもたちも少しずつ基礎固めしながら音楽を楽しんでいくことができると思います。教育出版のいいところは、2人以上でその音楽を楽しみましょうというような活動があり、和音に親しむ活動が教育出版のほうが多くあります。それも鍵盤ハーモニカや歌で体験できます。小学校3年生から和音の響きを楽しめるのはいいですね。教芸にもそういうところがたくさんあったらいいなと思いました。総合的には、やはり教育芸術社のほうが概ねいいと思います。
- 津森教育長：ほかにご意見がありますか。
- ■■■■■：和音は早く教えたほうがいいのですか。
- ■■■■■：そうですね。まず、いろいろな和音のきれいな響きやそうではない響き、不思議な音、それを耳で聴いて感じ楽しむことが大切だと思います。和音の響きを体全体で楽しむ活動が、教育出版のほうが多く体験できるなと思いましたが、音楽の基礎、基本をしっかりと学ぶというところでは、やっぱり教育芸術社のほうが優れていると思います。
- ■■■■■：教育出版のほうにマリimbaみたいなのがあって、それを4人でたたくのがありました、反対側からたたく、ああいうのはありなんですね。
- ■■■■■：そうですね。本来のたたき方とは違いますが、きっとおもしろいと思います。
- ■■■■■：びっくりしました。
- ■■■■■：基本があつての話ですけど、それをまた発展しつつ楽しむというやり方があります。
- ■■■■■：だけど、大体左から右に音は鳴っていくものなのに、これは逆になりますよね。
- ■■■■■：私もびっくりしました。おもしろいですね。
- ■■■■■：楽しさがありますね。
- ■■■■■：教育出版もいいですが、総合的にはやっぱり教育芸術社ですね。

- 津森教育長：教育芸術社ということになるのではないかというあたりは選定推薦理由とも合致するかと思います。音楽につきましては、このとおり第1推薦の教育芸術社とするということによろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、音楽は教育芸術社と決定いたします。
採択理由は、各題材で関連教材で広がりが多く、発展的に学ぶことができます。
- 図工です。これは2社しかございません。これは先ほどの山田委員長の話では、開隆堂出版のほうは、大きくビジュアルに訴えていると、それから日本文教出版は説明が多いということをおっしゃいました。いわゆるこれも、どちらが優れているかというより、どちらの特色をとるかという判断になると思います。選定委員会としては、説明というのは自分で読む子は読めるだろうけれども、やはりインパクトとか印象のほうを取ったということでありました。そういう推薦理由と考えていいと思いますが、ご意見はいかがでしょうか。
- ■■■■：開隆堂出版の方が、安全面を配慮した記載が多いように思います。特に刃物を扱う教材は、子どもが夢中になってしまい怪我をすることが多いようです。教師はその都度指導が大切です。
- 津森教育長：そのほかにはいかがですか。
では、図画工作については、第1推薦の開隆堂出版としてよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：開隆堂出版と決定します。
理由としては、大きくビジュアルに訴える効果があるということ、安全面の配慮がしっかりあるということとします。
家庭科にいけます。
第1推薦は東京書籍、第2推薦は開隆堂出版となっておりますが、これはいかがでしょうか。
- ■■■■：両方とも、私びっくりしたんですが、ページの下に英単語を使ってるんですよ。
英単語を使って紹介してるんですよ。「はさみ」は「シザーズ」ということで。家庭生活の単語というのは英会話で出ることが多いではないですか。
東京書籍のほうは、ここにそういうのが見えます「p o t a t o」とか、日常英語。英語が入ってきたらということの影響を考慮していて、東京書籍はそういう形です。開隆堂出版は、こういう感じで巻末に。これはこう言うよというのがあるんです。これはちょっと家庭科の内容じゃないんですが、一つ特色として。
- ■■■■：いや、これ多分子どもたちって結構見てずっと覚えるんです、余り教えなくても。だから、あるかないかというのはすごくいいような気がしますけどね、僕は。
- ■■■■：こちらもあるんです。大きさは違います。

- ■■■■：ミシンを扱う教材で、東京書籍は、主流である水平釜に加えて垂直釜の紹介もしています。家庭によっては、垂直釜を使っていますので、ミシンは全て水平釜ではないことを押さえておくことも必要かと思います。このように東京書籍にちょっとした配慮があるように思います。
- 津森教育長：そのほかにありますか。
特にご意見がないようですので、この結果どおり第1推薦の東京書籍とするというところでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、家庭科は東京書籍とさせていただきます。
選定理由としては、基礎的内容のまとめが基礎基本の定着に有効である、また全体的な配色や文字とか、児童にとって分かりやすいということが採択理由となります。
保健です。東京書籍が第1推薦、光文書院が第2推薦となっておりますが、ご意見いかがでしょうか。
- ■■■■：私は保健は光文書院のほうがいいと思ったので、その理由を言います。それは東京書籍の場合、非常にワークシート的で、書くところがすごくあるんですよ。これは逆に先生がチェックするのに大変だと思います、あんなに書かせたら。ワークシートの過ぎるのではないかと思ったんですよ。
- ■■■■：ワークシートの全てを埋めるとしたら、それは、大変なことです。
- ■■■■：すべてを埋めなければいけないという訳ではないので、そこについては大丈夫なのではないでしょうか。
- 津森教育長：特にほかにご意見がなければ、両方意見があるのですが、選定委員会の結論を尊重するという形で原則に従いたいと思いますが、いかがですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：第1推薦のほうが使いやすいし、親しみやすいし、資料の充実といった点で優れているということを推薦されました。第1推薦の東京書籍ということではよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、英語です。7社あったのですが、第1推薦は東京書籍、第2推薦は光村図書であります、いかがでしょうか。
- ■■■■：私はかつて英語活動を取り入れた国際理解教育をしたことがあります。その際、まずは自国の良さを知り、自国の誇りをもつことが大切だと、そして、このことが相手の国を尊重することにつながり、コミュニケーションがスムーズに行くのだということを学びました。そういった視点から、東京書籍は最初のページに「自分のことを紹介しよう」とか「日本のことを紹介しよう」とあり、単元構成に配慮があると思います。
- 津森教育長：ほかにはどうですか。
- ■■■■：別冊で辞書みたいなのがありますね。

- ■■■■■：英語のテキストCDとかICTというのはどういふのがあるんですか。
- 田川指導主事：今回の教科書は、QRコードが多く使われていふす。
- ■■■■■：東京書籍は結構書く作業があるじやないですか。
- ■■■■■：どうでしょうか。
- ■■■■■：どっちもどっちといふか、難しい、これは。やっぱり今回初めての英語教科書ですね。それぞれ工夫していふところはあります。自分の意見じやないのだけれど、英語の先生が使いやすい選考を尊重していいのかなといふ感じですか。
- 津森教育長：非常に難しいのではあるけれども、初めての採択といふことで、選定委員会の資料、推薦理由を尊重したいといふ意見ですか。
- ■■■■■：両方ともよくできていると思ひます。
- 津森教育長：甲乙つけがたいですが、そうですね、では、英語は東書といふことでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：推薦理由は、推薦理由の中からだると、4線入り単語リストを始め、学習を補助する細かい配慮があるといふことにさせていただきたいと思ひます。
最後ですが、道徳です。いかがでしょうか。
- ■■■■■：考え、議論するといふことが新しい道徳の中で言われてるんですが、光村図書はやっぱり以前私がやっていたころの道徳の主人公の気持ちを問うような発問があるんですよ。東京書籍はやっぱり、あなたならどうするといふ場合と、価値に向き合わせる、そういうところで、今からはやっぱり東京書籍じやないかなと思ひます。何か考えるステップといふのがところどころあるんですが、これは若い先生には非常に参考になるなといふのを感じました。
- ■■■■■：私自身も、前回は同じ理由で東京書籍は書き過ぎといふ判断をして、先生にもっともっと工夫しながら自由に授業を組み立ててもらいたいといふ思ひで東京書籍をあえて選ばなかったんですね。ちょっとどっちも気に入らないといふわけじやないんだけど、先にもう答えが見え、考えさせる道徳と言ひながらもう頭から価値項目といふのを出しちゃっているのだから、本当にこれで考える道徳ができるのかといふ気がしふす。でも、これもやっぱり調査員の先生が東京書籍に関しては、結構丁寧に見て、道徳は総合でもあるので、いふろんな教科との関連性だとかといふことも使えるし、一方、カリマネといふことをそれはやっぱり他教科との関連でいけるといふ、その辺のポイントはどっちも押さえてくれているなといふ感じはしました。ちょっと今回は前回の判断と違ふけれど、道徳の苦手な若い先生に東京書籍でやってもらおうかなといふ気もして、今日はきておひます。
- ■■■■■：私個人としては、どちらの教科書でもいいと思ひます。ただ、現在使用していふ教科書は、若い先生が指導しきれなかったといふ不評を聞いておひます。どの教科でも主張していふますが、若い先生がねらいを達成できる教科書を選ばないといふけないと思ひます。道徳科に求められていふ「考え、議論する」学習を考えると、東京書籍の方が好まれるように思ひます。

- 津森教育長：ほかの意見はどうか。
- ████████：結局この教科書ですかね。これに対して委員の先生がおっしゃったように子どもたちに対する問いかけとか、もともとこの道徳の評価というのは結論がなく、みなさんで考えさせるというような趣旨ですけども、そうはいつでもある程度の、こうだよという価値観が出てるんですね。あとはやはり現場の先生方の指導力、それに大きく左右されると思います。ですから、この教科書がどうのこうのということは、これを私としては甲乙つけがたいところがあって、それぞれに題材を提供しているわけですから、その中では推薦理由のところであらゆる理由で第1推薦というふうになっておりますので、これを私はこのとおりにやったらいいと思います。
- 津森教育長：ほかに意見はございませんか。
 では、東京書籍のほうがいいのではないかというご意見が出ています。採択としてはこの東京書籍を第1推薦とするということによろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：ご異議ございませんね。
 では、採択の理由は、やはり自分で気付いて考えさせる仕掛けが工夫されているなど、主体的に学習に取り組む、議論する道徳につながるものと考えられるという理由にしたいと思います。
 それでは確認をさせていただきます。小学校国語が東京書籍、書写が日本文教出版、社会が教育出版、地図が帝国書院、算数が東京書籍、理科は教育出版、生活が日本文教出版、音楽が教育芸術社、図工が開隆堂出版、あと家庭科から保健、英語、道徳は全て東京書籍ということになっております。よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、以上で小学校の部分を終了いたしまして、ここで若干休憩を取らせてください。4時半から中学校のほうへ行きます。10分間休憩します。
 (休憩)
- 津森教育長：ちょっと早いですけど、時間が押しておりますので、中学校のほうの15点について説明を山田委員長にお願いしたいと思います。
 山田委員長、お願いします。
- 山田委員長：では引き続き、各教科の推薦理由書をご参照いただきたいと思います。
 中学校に関しましては、これまでとほぼ変わらない、ほぼ同じ教科書ということもありまして、もうポイントだけ説明をさせてもらえればと思います。
 では、推薦理由書に従って進めていきたいと思います。
 まず、国語についてです。第1推薦は東京書籍、第2推薦は光村図書です。この第1推薦、第2推薦の図書、いずれも言語活動の充実に向けて内容が非常に充実をしているということで、この2冊を選択しております。東京書籍を選択した理由としましては、この光村図書のほうが一つの単元に複数の教材文があります。これは考え方によると、このほうが充実して、深い学びができるという考え方もできるの

ですが、その一方で付けたい力が焦点化されていない、あるいは一つの単元に非常に時間がかかってしまうということもありまして、シンプルな東京書籍のほうを第1推薦としております。

次に、書写です。書写ですけれども、第1推薦が東京書籍、第2推薦が光村図書です。東京書籍のほうはA B版で幅が広く、小学校とは逆転をしているのですけれども、東京書籍のほうは幅が広がっていきまして、そして、手本になる図版が非常に大きく表示されています。そして、その外側に注釈が示されていますので、非常に分かりやすく、そして練習しやすいような形になっています。その一方で、光村図書のほうは注釈が非常に細かく書いてありまして、それは丁寧なのですがけれども、非常に情報量が多いために視覚で理解しにくい点がございまして、それで、東京書籍を第1推薦といたしました。

次に、社会です。地理的分野、歴史的分野、公民的分野、いずれも東京書籍を第1推薦としております。

地理的分野は、第2推薦が日本文教出版になります。これは小学校のときに申しましたが、東京書籍はチャート式のような形で非常にシステムティックに内容がつけられています。ですので、中学校では東京書籍のほう重視されている傾向にあるかと思えます。特に地理的分野では写真や、あるいは地図、図表、グラフ等の資料が非常に多くて、そして学習内容を深めるためのいろんな手立てがなされているというメリットがございまして、それで第1推薦を東京書籍としております。歴史的分野についても、地理的分野や公民的分野や小学校での学習との関連が明示されている、教科横断的に歴史を学ぶことができるということで、東京書籍を第1推薦、第2推薦を教育出版としております。次に、公民的分野ですけれども、こちらは第1推薦が東京書籍です。課題の提示の仕方だとか、振り返りの仕方にも工夫が見られますので、第1推薦を東京書籍といたしました。

地図に関してなんですが、こちらは東京書籍ではなく、帝国書院を選択しております。東京書籍、これ同じもので、教科書と同じでなくても問題ないのかというふうに変定委員に聞いたのですが、これは特に問題はないという、むしろ同じというよりも、少し違う性格のものの方が学習が深まるのではないかとありました。帝国書院を第1推薦としておりますが、東アジアの拡大図が多く、非常に見やすい地図になっております。また、小学校のときと同様にそれに関連付いているようなことが学べるように、そういう仕組みになっておりますので、帝国書院を第1推薦としております。

次に、数学です。こちらは学校図書が第1推薦、第2推薦が東京書籍になっています。東京書籍は分かりやすさというのですか、丁寧さというのがむしろ数学に関してはマイナスに出ているかもしれません。学校図書のほうは社会に関連した身近な題材等を使って、生徒が主体的に、探索的に学べるような工夫がされておりますので、学校図書を第1推薦といたしました。

次に、理科です。こちらは東京書籍が第1推薦、第2推薦が啓林館となっております。

ます。第1推薦のほうは、言語活動が非常に充実しておりまして、話し合いだとか、発表の仕方などが非常に重視されていました。第2推薦のほうでも別冊のマイノート等でそのような工夫はされているのですが、しかしながら、東京書籍のほうはその言語活動等につきましては優れているという点で、東京書籍を第1推薦にしております。

次に、音楽です。音楽の一般ですが、こちらは教育出版を第1推薦にしております。教育出版のほう、一番下の段落を見ていただくと分かりますが、共通点、共通事項を押さえてありますが、分かりやすく説明が充実していて、基礎基本が確実に定着されるように工夫されています。また、文字や楽譜、写真などが非常に大きく掲載されていて、生徒の興味、関心を引くような工夫がされています。また、巻末に分かりやすく楽典が掲載されていて、音楽の学習を深める上でも役に立つということで、第1推薦を教育出版にしております。音楽の器楽合奏のほうですが、教育出版のほう非常に丁寧に作品の演奏について説明がしてありまして、リコーダーの運指表ですとか、ギターのコード表なども折り込みでカラーの見開きページが加えられているなど、学習するための工夫や、生徒の興味、関心を引くような、そういう仕掛けになっております。ですので、この器楽合奏のほうも教育出版を第1推薦としております。

次に、美術についてです。これは日本文教出版、それと開隆堂です。第1推薦が文教出版なのですが、小学校と逆転して、小学校は、開隆堂出版が図がきれいだという話をしたんですが、逆に中学校ですと、開隆堂出版のテキストが非常にきれいなのですけれども、それだけではなくて、もっと中学校ならではの学習すべきことということがありますけれども、そういったことに関しましては開隆堂出版のほうに優れていると言えます。題材ごとに学びの狙いが絞れていて、何を学ぶのかということ、あるいはどのように学ぶのかということが分かりやすく、並べられていますし、あるいは言語活動の充実に向けた工夫等、あるいは生徒がこういった表現方法で何を表現するのかということが分かりやすく示されております。情報量が多いのですが、中学校ではそちらのほうに望ましいということで、日本文教出版の教科書を第1推薦にしています。

次に、保健体育です。こちらは第1推薦が学研教育みらい、第2推薦が東京書籍です。どちらも内容としては非常に充実しているのですが、第1推薦の学研教育みらいのほうより生活に密着した問いで内容が構成されております。そのことを踏まえまして第1推薦を学研教育みらいとしています。

次に、技術家庭の技術分野です。こちらは第1推薦が東京書籍、第2推薦が開隆堂出版です。第1推薦の東京書籍のほうは、計画、実行、評価、改善、いわゆるPDCAを繰り返しながら学ぶように設計されております。ですので、どのように学ぶのか、何を学ぶのかということが見通しをもって理解できるようになっております。そういった点で東京書籍が優れているということで、こちらを第1推薦としております。家庭分野についてですが、こちらでも東京書籍を第1推薦、開隆堂出版を

第2推薦としております。東京書籍のほうが非常に題材といいですか、トピックが構造化されて並べられていて、そしてそれをしっかりと練習できるような並べ方になっております。しかも家庭科だけではなくてほかの領域にも広がりをもたせるような工夫がされておりますので、東京書籍を第1推薦としております。

最後に、英語です。こちらは第1推薦を三省堂、第2推薦を東京書籍にしております。第1推薦のほうは、単元末にその単元の学習内容、到達目標が具体的に示されていて、学習の展望をもちやすくするような工夫がされております。また、内容も非常に適度になっておりまして、一番下のパラグラフに書いておりますけれども、週4時間の指導時数において学習するには内容構成、配列、分量が第1推薦、三省堂のテキストが適切で、多過ぎず、少な過ぎずという形になっておりますし、また主体的に学習する工夫、あるいは言語活動に対応するための教材が多くなっております。ですので、第1推薦を三省堂とさせていただきます。

非常に早足で話しましたが、以上です。

- 津森教育長：ありがとうございました。
中学校の教科用図書、来年1年間の使用についてでございますが、質疑、応答がありましたらお願いいたします。
- ████████：この選定委員会の推薦理由の1番、第1推薦になっているのが、いずれも現在使用している教科用図書ということになっていきますね、結果として。
- 山田委員長：結果的にそうっております。
- ████████：1年にしても中学校の新しい学習指導要領も目の前で、この教科書にその辺の反映というか、工夫みたいなのは何かありますか。
- 山田委員長：今回はほとんどないですね。ほとんど変わっていないので、だから新しい指導要領に対応してというのはまだですね。
- ████████：次に準備をしているものに反映させるわけですね。
- 山田委員長：そういうことですね。
- ████████：内容はほとんど変わってない。
- 山田委員長：ほとんど変わっていません。例えば筆者ですとか、何か所属が変わったりとか、編集された方の、それが変わっているぐらいで、内容についてはほとんど変わってありません。
- ████████：統計的なデータが古いままになっていることはなかったですか。
- 山田委員長：それは特にないと思います。まだ十分に使えるデータではないかと思えます。
- 津森教育長：ほかにはありませんか。
それでは、以上で質疑を終えたいと思いますが、よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、山田委員長、大変ありがとうございました。
- 山田委員長：どうもありがとうございました。よろしく申し上げます。
失礼します。

- 津森教育長：それでは、ご審議をお願いすることになりますけれども、ちょっと時間の関係もありますので、現行と変わらない、来年ほとんど変わっていないということの中で、来年度1年間だけという条件の中で、ちょっと時間の関係もあって一つずついけませんので、ちょっとこれはいかがかというところがありましたらお願いします。
- 委員：異論なし。
- 津森教育長：特に各委員の意見もないようですので、教科ごとの採択に移りたいと思います。よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：国語でございますが、東京書籍ということでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由は、これは教材を絞った指導ができるので、付けたい力が焦点化できるという効果があるということであると思います。
書写についても、東京書籍ということでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：東京書籍として決定します。
採択理由は、情報量が適切で、視覚的に理解しやすく、活用しやすいということが理由となると思います。
社会の地理的分野は東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由は、写真、地図、図表等が多く、手立てが優れているということになります。
歴史的分野も東京書籍でよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：これは、東京書籍のほうが小学校との関連付けが明示されている、教科横断的な学習が期待できるということでございます。
公民的分野、これも東京書籍でよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：これはどちらも文章が適切で、資料も豊富なのですが、課題提示の仕方にやや差があって、第1推薦がそのようなことでございます。
地図です。これは帝国書院ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由は、東アジアについての拡大図が多いということと、地理的分野以外にも活用できる点が非常に評価できるということでございます。
数学が、学校図書ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由としては、どちらも調和がとれているけれども、学校図書のほうが社会的に身近な題材があり、数学的な活動について主体的に探究できるよう構成さ

れているということでございます。

理科です。東京書籍ということでよろしいでしょうか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：第1推薦の東京書籍は、言語活動が最も充実しているということが理由になるかと思えます。

音楽でございます。音楽の一般のほうは、教育出版でよろしいですか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：ここは小学校と逆になって、楽典の掲載、あるいは国歌の説明が詳しい、あるいは視覚的に生徒の興味、関心を引くことができるということです。

音楽の器楽合奏、こちらも教育出版でよろしいですか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：これは丁寧な技法についての指導について解説があり、生徒の興味や関心を抱かせる配慮が見られるということが理由になると思えます。

美術でございます。美術は日本文教出版でよろしいですか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：小学校とちょっと逆でして、中学校では視覚的な効果よりもたくさんの情報量があるほうが学習のねらいに到達しやすいと判断したということになります。

保健体育でございます。学研教育みらいということでよろしいですか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：より生活に密着しており、学んだことの有用性を感じられる工夫があるということが優れていることでございます。

技術・家庭の技術分野は東京書籍ということでよろしいでしょうか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：内容等は、第1推薦、第2推薦ともに優れていますが、見通しを持って主体的に学習に取り組むという面で東京書籍が優れていると判断をしたということでございます。

技術・家庭の家庭分野はこれも東京書籍ということでよろしいでしょうか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由は、一番下に書いてあります、基礎的な技能を確実に定着させるための練習や教科横断的な学習が充実しているなどでございます。

最後に、英語です。三省堂ということでよろしいでしょうか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：これは特に三省堂が、週4時間指導することにおいて、内容構成、配列、分量が適切であるということが選定理由となります。

以上で中学校のほうも15分野の選定が終了いたしました。

以上で決定をいたしました。事務局では県への報告等、事務手続の滞りがないようよろしくお願いいたします。

何か事務局から説明がありますか。

- 小川指導課長：委員の皆様本当に長時間ご審議ありがとうございました。

本日の令和2年度使用小中学校の教科用図書採択につきましては、非公開ということでご審議いただきました。適正かつ公正な採択の確保及び開かれた採択の推進の観点から、採択結果及び採択理由、そして調査研究報告書、教育委員会会議の議事録、その他開かれた採択を推進する観点から有用と思われる情報につきましては、採択後遅滞なくホームページ上で公表いたします。

以上です。

- 津森教育長：以上で本日の議題は全て終了いたしました。

長時間大変ありがとうございました。

閉会 午後5時20分